

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会)：2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門，若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：自転車空間・自転車交通行動	
日付： 6 月 6 日 金 曜日 ，セッション時間： 14：00 ~ 15：30	
オーガナイザー・司会者名(所属)： 吉田長裕 大阪市立大学 (報告者：金利昭 茨城大学)	
討 議 内 容	<p>セッション全体： 1 編ごとに発表と質疑を行い、最後に残された時間で再度個別の質疑が行われた。 前 2 編の発表では欧米の政策・研究動向が紹介され、活発な質疑が行われた。また後 1 編の発表では、自転車 OD 分析に基づき従来の駅端末中心ネットワークへの疑義が提示され自転車走行帯整備のあり方について議論された。最後 1 編では、駐輪位置決定モデルと設備配置の検討に基づき、駐輪施設を有効に利用させる工夫について質疑が行われた。</p>
	<p>(148) 多田 弘 (岐阜大学大学院)：パリ市の交通政策に見る自転車通行空間創出の試み インターネットによる研究資料の収集により、様々な工夫(一方通行逆行レーン、バス自転車レーン等)が紹介された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスと自転車の共用レーンとあるが、共用とはどういうことか。日本ではすでに共用しているのではないか。また幅員についてはどうか。 / (発表者) 日本では標示などで明確になっていない。 ・一方通行の工夫は幹線道路だけではないのか。地区道路でもやっているのか / (発表者) 幹線が多いが、地区道路でもやっている。 ・評価はどうなっているか。 / (発表者) 先行している北欧の評価を参考にして導入しているようだ。 / (司会者) 英国では、一方通行終わりの交差点で自動車との事故が発生しており、また一方通行化によって走行速度も高まることから、規制自体をやめようとの議論がある。 ・レンタサイクル(ベリブ)の駐輪場の配置とレーンは関係しているか。 / (発表者) ベリブまでは調べていない。ベリブ以外にも駐輪施設はある。例えばパリ駐車場混合経済会社と連携して自動車用駐車場内に駐輪場を設けている。 ・インターネットやグーグルを使う際の方法論と限界は何か。 / (発表者) グーグルアースは地区によって精度が異なる。一般の検索では論文はヒットしなかった。一般向けのパンフレット類がヒット。大学などのサイトに入ってから検索を行うべきであろう。 ・(司会者) 日本とヨーロッパの差異はどこにあるか。 / (発表者) 「自転車は車両、従って車道通行」という意識の違い。一般のおばちゃんでも「自転車は車道を走るんだ」という意識がある。

(149) 鈴木美緒 (東京工業大学) : 自転車走行空間に関する近年の研究動向 欧米を中心に日本と比較して様々な研究がなされているが、まとめとして(日本で見られるような)走行速度の分散、利用目的の多様性、そして事故対策が課題であるとの研究報告がなされた。

・車道との境界柵などの事後評価はあるか。 / (発表者) 見なかった。 / (司会者) 英国では柵を取り除くことで自動車の速度が下がることから、議論の一つになりつつある (参考 : <http://www.tfl.gov.uk/assets/downloads/ResearchSummaryNo3-PedestrianGuardRailing.pdf>)

・属性(高齢者)や大型車の研究はあるか。 / (発表者) あまりないようだ。 / (司会者) 巻き込み防止のため補助ミラーをつけるなど EU 標準化の動きがある (参考 : <http://www.lcc.org.uk/index.asp?PageID=846>)

・車体の多様化(リカンベント、サイクルトレーラー)の研究はあるか。 / (発表者) 研究としてはない。フィンランドでは昨年の夏ごろからベロタクシーが登場し、車道を走っているが、自転車レーンとギリギリに走っているので今後検討すべきだと考えている。

・「整備されていない状態」とはどういう状態か。日本と同じなのか、違うのか、どういう問題があるのか。 / (発表者) アメリカでの研究では、レーンがないと歩道に上がってしまう。アメリカは近年になって自転車走行空間を整備しているのだから、日本と同様、ルールが徹底していないのかもしれない。ヨーロッパでもレーンが無いより有るほうが安全であることが示されている。

・サービスレベルやマナーなど、よくできている仏国を参考とする際の注意点は何か。調査論としてはどうか。 / (発表者) ベリブの利用者の中には歩道へ上がってしまうものもいる。仏国では利用者層が狭いので Web で拾えるが、日本は利用者層も目的も広いので Web で拾いきれるかは疑問。

・(司会者) 海外では自転車設計に関するどんな調査データが多いのか。 / (発表者) 事故データは多い。自転車対歩行者の事故データは団体を通したり Web を使ったりして自己申告のものを集めているようだ。

(150) 大脇鉄也 (国土技術政策研究所) : 自転車の駅端末利用割合に関する統計的考察

本来の自転車ODを考えれば、従来考えられていた駅中心ネットワークの議論には疑義があるとの問題提起がなされた。

・(司会者) 自転車走行施設の計画を行う上でどのようなデータが必要となるのか、あるいは足りないのか? / (発表者) 自動車に比べて自転車は少ないが、国勢調査がよく調べられているので、10年毎のセンサスでも十分。

・(司会者) なぜ駅端末利用に着目しているのか? / (発表者) そもそも自転車利用は大部分が代表交通手段なので、この特徴を見落とさずネットワーク整備に考慮していくべきだと考えている。

(151) 杉谷亮太 (九州大学大学院) : 駐輪場内位置決定モデルを用いた駐輪施設の評価及び設備配置の検討
駐輪位置決定モデルを用いて駐輪設備の評価と設備配置に関して研究報告がなされた。

・(司会者) 駐輪場の空き具合に関して完全情報が伝わっていると仮定してモデル化しているのか？
その情報の取り扱いはどうなっているのか。 / (発表者) 考慮できていない。情報提供を工夫して
いくことが必要となる。

・精度向上のために、駐輪の内容を考慮すべきではないか。 / (発表者) 籠に荷物を置いているか
等の要因が効いていると思うが、今回は考慮していない。

・二段ラックの活用を向上させるようなアイデアを教えて欲しい。路上駐輪と関連させて検討する
とか。 / (発表者) 2段ラックの傾斜を変える等様々な工夫・要因が考えられるが、今回は分析デ
ータとしては得られない。路上駐輪に対して、盗まれにくい100円チェーンなどは、効用を考えれ
ば検討は可能を考える。

・(司会者) 現状では駐輪場が使われていないが、駐輪施設の設計でかなり改善できると考えた背
景と今後の研究の見通しについて教えてほしい。 / (発表者) 駐輪場配置や道路の構造、距離など
の要因を考慮できれば、利用率も高くよりコンパクトに駐輪場を設置できると思う。